

こうざ えもんつうしん 平成27年2月22日
講左衛門通信 第39号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114

『今日は、中央市豊富地区に残されている大我講の石碑と、「富士池」という古い湧水について話をしようと思っておる。昨年11月13日に「富士池」とその横に歌が刻まれた石碑を確認することのなったのは、「甲斐」第130号、2013年6月号の研究ノートを見たからなんじゃ。そもそも「富士池」には伝説があつてな、「昔、八幡さんの小高い丘を登りつめたところにある、おしの、という娘の家へ、旅の行者が立ち寄って、水を所望した。おしのは汲んできたばかりの池の水を差したすと・・・」と続くんじゃが、この行者が「富士の山、お姿うつる鏡池、今も誠に見る人ぞ見ゆ」という歌を詠んだそうじゃ。行者は、どこともなく立ち去って、数日後、ちょうど朝日が山の頂から射して、池の面に富士山が映っていたそうじゃ。その水を汲んで病気で寝ていた父親に飲ませると、たちまち父親の病気は全快したという伝説なんじゃ。研究報告の最後には、忍野村忍草の浅間神社と東円寺、大我講の関係が書かれておったんじゃよ。確認しないわけにはいかんじゃろ。』

『「富士池」は、どんなところにあつたでまっすん？湧水は今も湧いているでまっすん？石碑の文字は読めたでまっすん？とても興味深い話でまっすん。』

『研究ノートには、大まかな地図と、池のある場所の説明文があつたんじゃが、慣れない土地だからのう、まずは、郷土資料館へ行ったんじゃよ。目印は、地区にある八幡神社なんじゃが、八幡神社はすぐに分かつたんじゃよ。けれど、小高い山の上は一面の畑じゃ。それらしい池など見当たらなかつたんじゃ。数人で行ったお陰で、「富士池」を見つけることができたんじゃが、よく見つけることが出来たと感心するような場所にあるんじゃよ。湧水は、池の底に少しだけ湧いているのが確認できる程度だつたんじゃ。石碑の字はよく読むことが出来たぞ。「大我講」という文字や、大我講の印である富士山の絵の下にまるい三ツ星が刻まれておつた。感動したぞ。』

『「富士池」のある場所から富士山は見えないんじゃ。けれども、この碑を建てた人々にとって、湧水池に映ったとされる富士山に心を馳せ、祈りを捧げたんじゃろうな。』

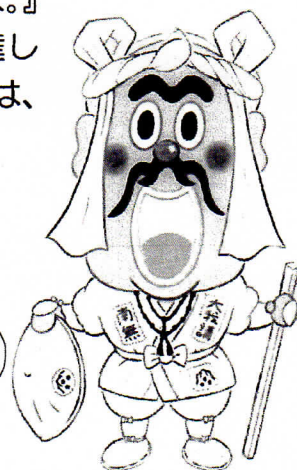
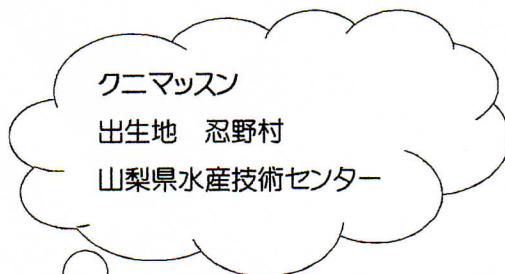
『祈りを捧げる人々の心は美しいでまっすん。現在のように医療が発達していない時代、病気やけがは命に係わる事だつたでまっすん。昔の人々は、祈らずにはいられなかつたでまっすん。』

『そうじゃな。石碑は、人々の様々な祈りの証なんじゃよ。次回は、続「谷村仲」の話をしようと思っておる。京都石清水八幡宮の大谷という所に、「谷村仲」のお墓があつたんじゃよ。』

『お墓があつたでまっすん？』

『そうなんじゃ。あつたんじゃよ。2月16日に確認したんじゃよ。神應寺のご住職夫妻のお陰じゃ。謎が少し解明されそうじゃ。』

『待ち遠しいでまっすん。』



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定